

(Q) 最近、湛水直播、乾田直播に加え、栽培期間中の入水を少なくしたり、水を散布する等の水管理を工夫した新たな直播技術が登場していますが、農薬ラベルの作物名に「直播水稻」と記載のある農薬は使えるのでしょうか？

(A) 入水を少なくしたり、水を散布する等の水管理を工夫した新たな直播技術は、従来の直播技術と同程度には技術的に確立されているものではありませんが、直播技術の一種です。

現在、直播技術を用いた栽培において、農薬ラベルの作物名に「直播水稻」と記載のある農薬が使用されていますが、この農薬は、水田における湛水状態という慣行栽培で行われた試験結果を元に残留濃度等を確認したうえで登録されたものです。

ご質問の新たな直播技術の水管理は、登録時に確認した慣行栽培の試験条件とは異なるため、農薬の残留濃度等が異なる可能性があります。

このため、水管理と農薬の残留濃度等に関する知見が蓄積されるまでの間、新たな直播技術を用いた栽培においてこの農薬を使用する場合には、玄米、もみ米、稻わら及び黄熟期地上部（家畜の発酵粗飼料用）の残留濃度が基準値等を超過しないことを確認するなど十分注意する必要があります。

なお、従来の陸稲栽培と水管理の程度が同等な栽培を行う場合には、従前どおり農薬ラベルに「陸稲」と記載のある農薬を使用してください。